



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒 【寛容】明朗で思いやりのある生徒 【挑戦】健康でたくましい生徒

〈重点目標〉自ら考え、判断し、目標に向かって実践する生徒 ～夢の実現～

原町三中だより

令和5年2月3日（金）
第39号
発行責任者
校長 志賀 嘉津美
電話 22-3802

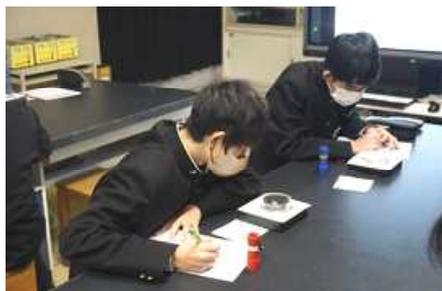
放射線教室 放射線を科学的に理解するために

1月27日（金）、高エネルギー加速器研究機構の高橋一智様、環境再生プラザ様のご協力のもと、放射線教室を実施しました。各学年ごとに、高橋様から福島の実地状況等についてデータを示しながらオンラインで講義をしていただき、1年生は個人霧箱の観察、2年生は線量計を使用してのマッピング測定体験、3年生は風評などについてのディスカッションを行いました。

1年生は簡易霧箱を用いて、放射線がつくった霧の飛跡を観察しました。霧の「長さ」で飛んだ距離が、「太さ」で飛んだ周囲のどの範囲に影響が出るか、「濃さ」で影響の強さが分かることを理解しながら観察しました。2年生は班に分かれて学校敷地内の空間線量を測定しました。除染や半減期により線量も下がり、私たちの生活が安全が確保されていることを改めて実感することができました。帰還困難区域の中にも「特定復興再生拠点」が設けられ、除染作業等によって人が住むことが可能になっていることがわかりました。

福島県では県内の農林水産物のうち、販売されるすべての食品群を対象に検査をしています。3年生は、福島県産食品の風評に対しての「ある事例」について、専門家の先生の話や参考資料・データをもとに、どのようにして正しい理解を得るかということについて考え、解決策を話し合いました。

東日本大震災から12年を迎えようとしています。放射線教育を含め、大震災で経験した教訓は今後も学び続けていく必要があります。放射線に関しての科学的な理解は、誰もが身に付けていなければならないものです。平成24年度以降の公立小中学校の教育課程に、放射線教育を位置付けることは確実に継承され、各学校で放射線教室などが行われています。以前は、日常生活において「ホットスポット」という言葉を耳にし、そこには近づかないなどの注意喚起をした時期もありました。現時点において日常の生活圏に「ホットスポット」は無くなっています。今後もその時々の実態や実情に合わせ「放射線を科学的に理解する機会」を継続していきたいと思えます。



霧箱で放射線の飛跡を観察する1年生



学校敷地内の線量を測定する2年生



風評被害の払拭についての考えを述べる3年生

令和5年度の重点目標が決まりました 学校評価のアンケートでは、本校生徒に最も身に付けさせたいこととして「夢や目標に向かっての努力」、「考えや意見を表現し主張する力」、「強い意志と実践力」が多くあげられました。また、次年度の学校経営の方針には「気づき、考え、行動する生徒」を目指す生徒像として掲げております。これらを踏まえ、令和5年度は、「**目標の実現に向けて、自ら努力する生徒**」を重点目標とし、授業や部活動、学校行事や生徒会活動など様々な場面で常に意識しながら教育活動を推進していきたいと思えます。

なお、この重点目標につきましては2月21日（火）の学校評議員会で学校経営の方針も含め、評議員の皆様にご指導・ご確認をいただき進めて参ります。